

和賀 袖川沢キトノ沢

藤岡

【日時】 2007年7月14日(土)～15日(日)

【メンバー】 L藤岡、SL浅井、田村、山川

(7/14) 明け方に錦秋湖SAでぶっ倒れてそのまま車中で仮眠、朝に大曲へと移動する。この時点で東北を目指しているのは田邊Pと我々のみ。田邊Pは転進と聞き、日曜の予報が良くないので我々もコンビニの駐車場で作戦会議。体系を見ていろいろあ～でもない話しをするが、結局田邊さんの後を追いかけて袖川沢とすることに。ただし、注意はしつつも脳天気・いや楽観的メンバーの意見は沢で最低一泊するPLANに落ち着いた。伊藤さんに計画書を送り、のんびりと真木溪谷へと向かう。林道途中には随所に標識があり、広場には看板で周辺の山や観光施設がきれいに描かれており、何故か気分がウキウキしてくる。入溪地点の駐車場に入るところで田邊車とちょうど合流した。日帰り装備で軽快な田邊Pに少し遅れて入溪。最初はほんとうに東北の沢らしい川幅の広いのんびりとしたゴーロ歩きから始まる。豊かな森を堪能し、杉の巨木に見入ったりして、小滝を二つ越すとキトノ沢出合いとなる。手前に広い川原があり、増水も考慮しているいろいろ天場を探す、川原での焚き火の誘惑には勝てずここを天場とする。雨に備えてタープ二枚をきっちり張ったり、テント裏にはロープを引いたりしていざというときに備える。15時の田邊Pとの交信では、小滝が連続しているとのことでまだ稜線手前、上に上がるにつれて風が相当強いとのことだが、沢中は穏やかなまま。この夜は結局朝まで雨は降らず、快適な焚き火を楽しむことができた。



(7/15) 出発してしばらくすると小雨が降り始める。8m滝は左側を空荷でへつって荷揚げをする。左俣を分けると12mの滝は登れず右岸を巻く。50mほどの多段のナメ滝が現れ、すこし和む。その後も登れない滝が出てきて、15m滝も右岸を高巻いて懸垂で降りるが、もう少し我慢して上流へ行けば灌木伝いに



下りることができた。少し変わった形の二段末広りの滝はなかなか美しい。その先の10m滝は巻きもやっかいそうであったが、ここは浅井さんがロープを引いて突破してくれた。そろそろ時間が気になりだしたので、私はザックをしょったまま登ろうと思い取り付いたのだが、核心部分を全く超えることができず残置にお助けをかけて一旦降りる。急がば回れでやはり荷揚げをすることにする。次の10mも右岸を高巻き懸垂、こちらもちょっと進めば歩いて降りれるところで、ロープをセットしている間に田村さんは沢床へ降りてしまっていた。なかなか巻きの下降がうまくゆかない。900m分岐は水量は少ないながらも両門の滝となっている。その後は小滝を過ぎると沢がガレているせいか、急に水が細くなるので水を汲む。その後は少しやっかいな小滝を過ぎて、軽い藪を抜けて白岩岳山頂へ到着。結構いい時間になってしまった。稜線はやはり風も強く明日の天気も心配なため、登山道で一気に下山することにする。山頂から暫くは気持ちの良い森を抜けて歩いてゆくが、錫杖の森ではかなり急なガケをトラロープを頼りに降りてゆく。小杉山につく頃にはそろそろ辺りも暗くなり始める。薬師岳までの稜線はきれいな花の咲く気持ちの良い草原なのだが、いかんせん既に夜だし、なによりも台風の影響でとんでもなく風が強い。風速15~20mくらい吹いているのではないかと思うくらいで、体が飛ばされて耐風姿勢を何度も取る。薬師岳から少し下ってようやく樹林帯に入り強風から逃れることができた。避難小屋は一応標識も立っているが小屋の形跡は全くない。そのまま下って、あとはひたすら長い林道歩き。登山口にはきれいな小屋が建っているが、先客がおり宴会は無理なので頑張って歩く。途中ホテルに心癒されながら、とっぷりと日の暮れた夜中によりやく駐車場に到着。長い長い一日が終わったのでした。

翌日は乳頭温泉まで足を伸ばし森に囲まれた乳白色の露天風呂に感動し、盛岡ラーメンを食べて帰京しました。

なかなかルート選びが大変な山行でしたが、行って見ると思いの他楽しめて、実は怪我もあってほぼ2年ぶりの泊まりの沢だった私は、十二分に満喫できたのでした。下山連絡先の伊藤さんにはご心配をおかけしました。ありがとうございました。

【グレード】2級上

【行程】7/14 袖川沢駐車場(11:00)~キトノ沢出合BP(13:45)

7/15 BP(6:15)~515m二俣(7:40/50)~900m二俣両門の滝(12:50)~白岩岳

(14:50)~小杉山(18:20)~薬師岳避難小屋(20:40)~袖川沢駐車場(22:20)

【地図】抱返り溪谷、大上成

